

詩編 第44編 1節

「神よ。私たちはこの耳で、先祖たちが語ってくれたことを聞きました。あなたが昔、彼らの時代になさったみわざを。」

神よ、と叫ぶことが出来る幸いがある。喜び、楽しみのなかで叫ぶ、神よ、がある。多くの場合は落胆し嘆きのなかで、叫ぶ声が聞こえる。周辺国から攻められ、窮地に陥った時の叫び、神よ、が響く。国民の存亡が危機的状況にある時の叫び、神よ、がおこる。

喜び、落胆、絶望、嘆き悲しみ、悲惨な状況下にあっても、たとえどのような時であったとしても叫ぶことが出来る、神よ、と。危機にあっても宙に浮いて、それっきりではありません。そこで神よ、と叫ぶことが出来るのです。そこで、神よ、との叫びから、あなた、と呼び掛けることを許されます。それは、呼んだお方、神が聞いてくださるからです。神よ、と呼ぶ時、そこにおられます。そこにおられるから呼ぶことが出来るのです。

聞いてくださる神が、叫ぶ者たちの先祖にどのようなみわざを成したのか聞いたと、そこにいまもおられる神に伝えます。先祖たちの時代に起こった神の出来事を聞きながら、彼らは、神よ、と叫びます。彼らはいまも生きて働かれる永遠の神を、あなたと呼び、語ります。神を知る者の幸いの叫びである。

2022年10月2日